



中村俊定文庫
文庫 18
1026
2





狂歌現在奇人譚初編之下

東都八島定岡著



○淺洞庵一村の傳

[illegible]



こころえよぶうとく清澄の次の回へあつたはぬ和尚やとて身をおこ
 しよのびいとうておせのこひつとておとろくきふいふのふいであひ
 大まぢとてきこつ五老もけちまうつものあつとてまぢうは驚怖
 したつと清澄の次の間のそんまうさうけ庭のけけとあがえ
 めううが又さうかうは弟子とておとろくあつとてかうかう
 たりとて何事とて庭つてひめな見まを大いなる古木に
 の谷の上よとてさうたつとておとろくあつとてかうかう
 とつと谷の上よとてさうたつとておとろくあつとてかうかう
 掃まての掃のぢがうとせんがせんとておとろくあつとてかうかう
 清澄と見うとておとろくあつとておとろくあつとてかうかう

[illegible][illegible]

木哥喜人

[illegible]

山崎の里の朝霧
 馬あつとてはなほこの里の朝霧
 主人一人あつてはなほこの里の朝霧
 筆とてはなほこの里の朝霧
 吟とてはなほこの里の朝霧
 山崎の里の朝霧

めどとちりくぞとの愛せしむるらんていかの奇瑞のあぶきふえは
 よう草木を愛せし人ささるるほどに中よもささるえたるわ
 成範郷いとうと愛せし由急操所中納言とつられ玉ひ右丞相
 兼季公の菊とりてあそびしゆゑ菊亭といふ號いせのこと
 と其外高倉の院にもちを愛せしためひ大江の佐國いつは花
 と愛せしとき又めろこの上陽夫人の梅を愛し梅妃といふ
 を晉の王之猷の竹を愛し陶淵明の菊と愛周茂叔いう蓮と
 愛せしとある今此二人のひとり柳を愛し別荘の庭は梅や柳を植
 て五柳園とあづけしかの柳のもとは家とつら柳下惠も柳
 のもとより多し開明などもあつたらるるべし五の字とかあり

[illegible]

奇人譚といふをいつてみても
画をかきうへるのうしろみま
あつたが、いすあかしくおる
うをぬく人からあをうす
つてうおひゆるいそやううの
る。かゝるうとていふ本性
あつたが、この人もあつた
け。おのれはうなりのうか

癡絶といふのをうきうき
二絶ありといふ。この
かみをよみんからあつた
いそやうをうす。う
ぬ。

文政七年五月

福西屋内成

○狂歌言人下加丁

狂歌現在奇人譚初編

二冊 出来

同 後編

二冊 出来

狂歌作者列傳

二冊 出来

俳諧奇人譚

三冊 近刺

狂歌古今奇人譚

二冊 近刺

文政七申歲五月

江戸日本橋通壹丁目

書肆

大阪屋茂吉



